



稲葉健二後援会
市川市八幡2-2-10
TEL333-1783
FAX334-1990

稲葉健二は、
皆様のご意見・ご要望を
お待ちしております。
お気軽にご連絡ください。

内部討議資料

皆さん、こんにちは。市川市議会議員の稲葉健二です。
さて、この2月の定例会では3月1日に、私の所属しております会派「緑風会第2」の総括質疑者として、代表質疑をさせていただきました。代表質疑の内容につきましては、裏面に載せてあります。
また、いつものように一般質問にも立たせていただき、大きく分けてふたつの質問をさせていただきました。関係者の方々の真摯なご答弁により、これからは行政と一体となり、市民の皆様、地元の皆様のために、より良い市川を作るため努力して行く決意を新たにいたしました。

八幡・南八幡地区自転車駐輪対策について
今では、全国自治体の課題でもある駐輪場の整備、市川市議会でも過去、何度も取り上げられてきた問題です。

この駐輪問題にしましては、市民の皆様それぞれ、いろいろな立場があると思われま。まず、八幡・南八幡の駅に近い地域にお住みになってる方。この皆様は、どちらかという自転車を利用して駅に行くことはほとんどありません。その代わり、この地域に住んでるがために、駐輪問題が生活そのものに影響してきます。違法駐輪自転車によって、通行する歩道が狭くなる、商店の方たちが商品の運搬や、店舗前の清掃もできない。車イス、ベビーカーが通れない。それよりも一番困ることは、災害時の緊急車両が通れなくなることで。次に駅まで自転車を交通手段として利用する方、駅周辺にある商業地区を利用するため自転車での来店の方。この皆様にとっても、駐輪場が足りない、あっても駅から遠い、バスなどの利用は道路が渋滞している、どうしようもないなどの、当然のご意見がございます。置かれる側と置く側、当然のことながら両者の言い分があります。私は、置かせないということが駐輪対策だとは考えておりません。八幡・南八幡地区での駐輪問題の際だった地域、場所を明らかにし、今までの駐輪対策の問題点、今後の方向性などをよく考え、解決しなくてはならないと思っています。

市川市は構造改革特区で「人にやさしい道づくり特区」提案をし、道路を利用した駐輪対策への考え方は進んでいる自治体だと思っています。



現在の市川駅や南行徳駅の例を考えると、八幡地区でも同様な形で行われるべきです。例えば、歩道が広く余裕のある部分を一回利用の駐輪場としての整備ができれば、すいぶん街の様子は変わります。
さらに、商店会の空き店舗などのスペースを借りて駐輪場を開設するなど、考えのひとつだと思います。

また、本八幡地区市街地再開発と駐輪の関係も重要です。再開発が完成し、八幡地区の駐輪場整備にメリットがうまれるように考えていきたいと思っています。
次に自転車と同様に問題になっているのが原動機付自転車です。駐車禁止として反則切符を切られる場合もありますが、対象エリア外の「置き得」のようなケースが多く見られます。条例上、撤去も可能なようですが、現在撤去は行われていません。今後、この原動機付自転車の問題も、同様に考えていかなければいけません。

続いて、平成一七年度の施政方針にある「人にやさしい道づくり事業」で、本八幡駅、市川駅、行徳駅の周辺半径五〇〇メートル以内の歩道のバリアフリー化を進めることになっていますが、せっかくなのでこの計画も、歩道部分に違法駐輪自転車があつてはなにもなりません。その点にも目を向けて、計画しなければなりませんよ。

最後に、他市での制度、ボランティアの方たちによる「放置自転車対策協力員制度」が効果を上げていると聞きました。自転車を片付けるのは行政だけの仕事ではなく、また人を雇って片付けさせるだけではなく、地元のボランティアの方たちが一緒に取り組んでいる、そんな制度です。このスタイルは、とても大切なことだと思います。ぜひ市川でも実現できたらと考えています。

市川市職員の人材育成について

市川市では職員の能力向上のために、平成一〇年度に「人材育成基本方針」というものを策定しました。しかしながら、この数年間で公務員を取り巻く環境が大きく変化し、この「人材育成基本方針」も改正しなくてはならない、そんな時期に来ております。

人材育成は、研修という枠にとらわれず、人事制度、組織との密接な関連の中で、「自分で育つ」「組織で育てる」「制度で育てる」、こんな考え方が必要だと思います。また、研修制度には、一般研修、特別研修、派遣研修、職場研修などの様々な形がございますが、講師を招いての研修も大切なものはもちろんですが、仕事を行う上で一番重要なのは、職場で仕事をしながらの研修だと思っています。上司と共に仕事の内容を考えたり、提案したりしながら能力を身につけていく、チームを組み、お互いが指導、刺激しながらスキルアップしていく、大切なことだとおもいます。さらに、年齢・学歴を撤廃した採用制度を取り入れた市川市としては、今までの新卒採用研修だけではなく、学歴・年齢の違う職員に対する研修も考えていかななくてはならないと思います。最終的には、職員が研修によってスキルアップすれば、市川市民の皆様のメリットにつながる、つまり職員を持つ能力を最大限に引き出すということが、効率的な行政運営につながり、市民満足度の向上にもつながります。

今後の自治体運営にも影響のある大事なことですので、一生懸命取り組んでいきたいと考えております。



2月定例会に千葉光行市川市長が表明された「17年度施政方針」について、私、稲葉健二が緑風会第2の会派を代表して以下のような質疑をさせていただきました。

千葉市長より、丁寧、真摯にご答弁をいただき、市長、行政とともに、もっともっと住み良い市川のために努力していく決心を新たにいたしました。



- 1、2007年度から減少に転じると予測されているわが国の人口、この人口減少に対する市川市としての具体的な取り組み方、施策について。
- 2、新年度は市川市にとって第一次総合5ヶ年計画の最終年次にあたりますが、その現在までの段階での総括と、目標の達成率のとらえ方について。
- 3、地方主権の時代を見据えての「創意あふれる自治体」の具体性とそのこれからの方向性について。
- 4、市川市の職員採用試験におけるの学歴、年齢制限の撤廃による、新卒採用の割合と職員の世代交代構成への影響、並びに今後の新卒者の一定採用枠について。
- 5、市民が選ぶ市民活動団体支援制度に応募した83団体の構成と、今後の団体の育成について。
- 6、情報の交換による信頼関係の構築が重要である「市民と行政のネットワーク化」について。
- 7、健康都市いちかわの推進としての「WHO健康都市宣言」における、本市の取り組み方について。
- 8、安心・安全なまちづくりのための、防災への取り組み方、並びに防犯カメラの設置について。
- 9、保育園待機児童の解消、空き教室を利用した「ピーニング」の整備など、子育て支援への取り組み方について。
 - 10、環境を考えた「資源循環型都市いちかわ」の具体的な内容とその進め方について。
 - 11、電子自治体への取り組みの中での、その整備の具体的内容、並びに利用者へのフォローについて。
 - 12、高齢者の身体機能の向上を図るための「パワーリハビリテーション事業」の具体的な内容、また地域ケアシステムの充実・活性化を図るための「コミュニティワーカー」の具体的な内容について。
 - 13、障害児、障害者のための施策としての総合福祉センター「こども発達センター」のメリットについて。
- 14、幼稚園教育におけるサポートとしての相談員が行う内容、少人数学習の具体的な内容、補助教員の配置の仕方や離島体験留学の今後について。
- 15、文化会館の開館20周年記念事業の内容、またこれからの文化会館改修計画について。
- 16、人にやさしい道づくり事業の中の「交通バリアフリー基本構想」の歩道のバリアフリー化の取り組み方、道路照明灯の設置について。
- 17、本八幡駅北口A地区市街地再開発事業の早期事業化に向けての都市計画決定のスケジュールの内容、並びに事業決定による地域住民や一般市民へのメリットについて。
- 18、中小企業の振興、商業の活性化のための、商工会議所のあり方、また今後の商店街の活性化の方向性について。
- 19、救急救命士の今後の養成計画と必要性、また、IP電話・携帯電話からの119番通報に対応できる消防救急指令管制システムの改修によるメリット、機動化学隊の市民への認識浸透について。
- 20、今後の市民の声の受け入れや、「広報いちかわ」を含めた広報活動の考え方について。
- 21、市民一人ひとりの地域との関わり合いに対する本市の考え方、並びにボランティア団体やNPOなどの市民団体とのまちづくりへの市の関わり方について。

